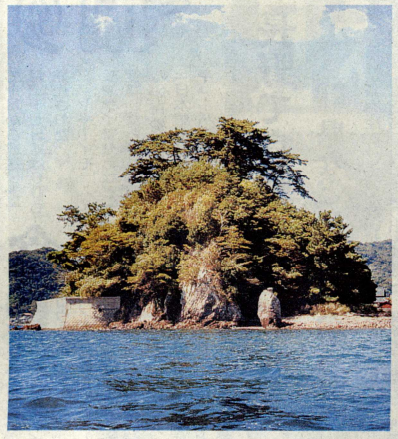
大分合同新聞（夕刊）　2002年（平成14年）12月12日　木曜日

県沿岸1周カヌーの旅

（随時掲載）



海上から眺めた島山（日出町）

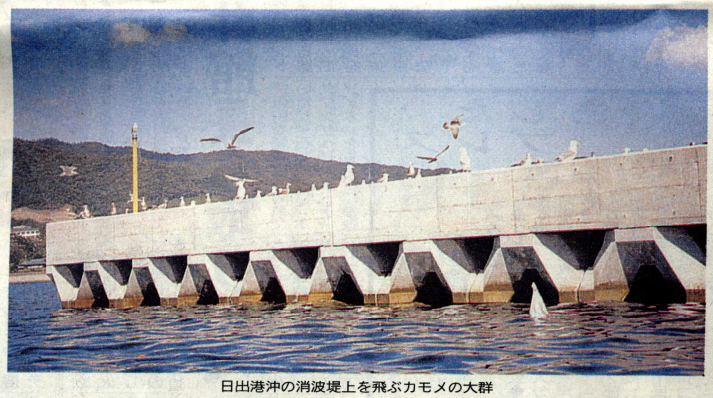
日出町糸ケ浜から出発

感動 数百羽のカモメ

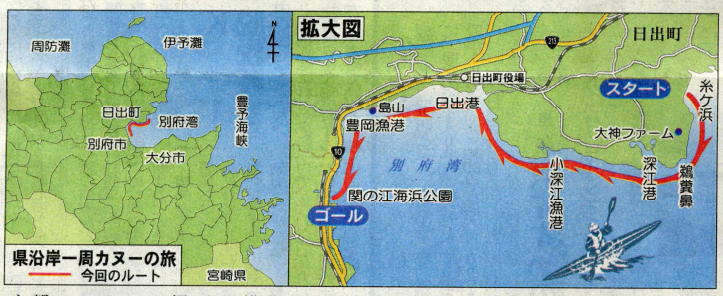
日出・糸ケ浜～別府・関の江海浜公園

車のルーフにカヌーを載せ、対岸の日出町を目指しながら夜明けの町を出発。早朝の別府湾は、カモメが群れ飛び、水面には陽光が反射して、幻想的な感じがする。11年前に大分県の沿岸をカヌーで巡ったことがつい先日のように思い起こされる。これからカヌーをこぎながら、海から見た大分県の海岸線や感想をのんびりリポートしていきたい。

澄んだ水…残念なゴミ増加



日出港沖の消波堤上を飛ぶカモメの大群



さて、1回目は日出町糸ケ浜海岸から別府市関の江海浜公園までの約14キロ。午前9時出発。天気は快晴、無風。最高のカヌー日和。満潮だが、すぐ下はとても浅いので、岩に気を付けながら進む。意外にも大分市の工場群がとても近くに見える。約10分後、最初の岬をクリアすると、大神ファームの下の海岸。かなりの絶壁が続いている（養殖の網立てくいに気を付けて）。

ところで、今回使用するカヌーはファルトボートと言って折り畳み式で、手作り。骨になるフレームを船の形に組み立てて、船体布と呼ばれる袋状のものに入れると出来上がる（慣れると約15分もあれば完成）。解体後、収納するとゴルフバッグに収まり、とてもコンパクトになる。

約15分で鵜糞鼻着。幾つもの洞穴が迫り。しばらくは海の水はとても澄んでいて、海底がすぐそこに見える。右の森はずっと照葉樹林が続き、優しい感じがする。約15分で深江漁港をクリア。漁船に迷惑にならないように一気にこぐ。11年前と比べて大きく変わったことは、ペットボトルのごみが増えたことだ。海岸線はどこも汚れている。

約40分で小深江漁港クリア。さらに約40分後の日出湾沖の消波堤では数百羽のカモメの整列に感動！遠くからの漁船のエンジン音、右岸に打ち寄せる波の音、同じく右の森からの鳥の声、それにカヌーをこぐパドルの音以外なにも聞こえない。静かなカヌーの旅だ。

その後、日出湾真ん中くらいから、風が南からの横風に変わったので気を使った。カヌーは横風にとても弱い。約25分後、島山クリア。日出湾を東から西に一気に横断する形となった。横風に悩まされながらも、スタートから約3時間15分で関の江海岸に到着した。初冬の静かなカヌーの旅だった。

＝アウトドアグループ「アウトランド」カヌー部（大分市）

▽アウトランド・カヌー部は、大分県沿岸一周カヌーの旅の参加者を募集しています。問い合わせは電子メールで。アドレスはmail-de-doraemon@docomo.ne.jp（携帯電話）

旅